

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：35307

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730318

研究課題名(和文)中国製造業の成長メカニズムと制度のダイナミクス

研究課題名(英文)The Dynamics of the Chinese Large Manufacturing Enterprises

研究代表者

江 向華 (Jiang, Xianghua)

就実大学・経営学部・准教授

研究者番号：60582393

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、多角化戦略を中心とした成長戦略の視点から、中国巨大製造企業の成長メカニズムの特殊性を現地企業へのインタビュー調査および資料調査を通じて究明してきたものである。これまでの企業成長戦略研究では、先進経済国と新興経済国(中国を含めて)を分けて議論されることが多かった。しかし、中国では創業当初から巨大規模で設置された社会主義大企業が存在するため、中国における大企業が必ずしも成長過程を経ていることに注目して、先進経済国、中国以外の新興経済国と中国を分けて分析した。

研究成果の概要(英文)：The research introduced qualitative methods to explore the specificity of the growth mechanism of the Chinese large manufacturing enterprises based the perspective of growth strategy. The results revealed the new perspective to analyze the growth process of the Chinese large manufacturing enterprises. Based on the new perspective of (1) the differences of the advanced countries' enterprises and the emerging countries' enterprises; (2) the differences of the the emerging countries' enterprises and the Chinese enterprises, the specificity of the dynamics of the Chinese large manufacturing enterprises were analyzed.

研究分野：社会科学

キーワード：中国企業 成長戦略 国際比較

1. 研究開始当初の背景

代表者はこれまで一貫して中国企業の成長戦略について研究してきた。しかし、本研究を開始した 2011 年ごろ、多角化戦略を中心とした成長戦略の理論は、先進経済と新興経済に分けて議論されてきたが、実証では中国企業のことを説明できなかったことを明らかにした。

つまり、これまでの成長戦略研究では、大企業が成立するためには、競争の中で次第に経営資源を蓄積していくというプロセスを経て規模拡大の過程があることが前提とされてきた。設立当初から巨大規模を与えられている政府設立の公益企業は通常競争を排除した独占企業として成立し、その条件が変更されることはない。このような企業は競争を経験することなく推移する。

こうした視点に立つなら、中国の大企業は、多くは計画経済下で経営資源を大規模に投入して設立された国営企業であり、競争のプロセスを経ずに大規模になったといえる。改革開放以降は市場経済となり、競争が始まったが、当初から大規模である企業が競争を経ずに優位を確保した場合に、以下の 3 つの問いを確認する必要がある。つまり、競争の影響を受けているか否か、当初の経営資源がそのままの形で残存するのか、あるいは資源の更新がなされているか、企業行動としてどのような特徴を持つかについて検討する必要があると考えることに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多角化戦略を中心とした成長戦略の視点から、中国巨大製造企業の成長メカニズムの特殊性を現地企業へのインタビュー調査および資料調査を通じて明らかにすることである。

これまでの企業成長戦略研究では、先進経済国と新興経済国(中国を含めて)を分けて議論されることが多かった。しかし、中国では創業当初から巨大規模で設置された社会主

義大企業の存在があるため、中国における大企業が必ずしも成長過程を経ていないことに注目して、先進経済国、中国以外の新興経済国と中国を分けて分析するのが本研究である。具体的に次の問いを解明することを目的とする。

- (1) 当初から大規模である中国企業が競争の影響を受けているか否か。
- (2) 当初の経営資源がそのままの形で残存するのか、あるいは資源の更新がなされているか。
- (3) 企業行動としてどのような特徴を持つか。

3. 研究の方法

本研究は、ルメルトに対応して大企業分析の対象を設定し、分析対象は 2004 年中国製造業上位 200 社(売上によるランキング)である。オリジナルなデータベースを作り、資料調査とデータ分析を行う。データは主に各社のホームページにおける公開資料や、中国政府発行の統計資料、中国企業に関する先行文献、学術論文、企業の内部資料、企業に対するインタビュー等から入手したデータである。

4. 研究成果

以上の問題意識や研究手法のもと、本研究はこれまで体系的に議論されていなかった中国大企業の動態を解明するために、中国大手製造業を類型化し、各類型の企業行動の特徴やパフォーマンス、保有する経営資源の変化を比較することによって、「競争を通じた成長プロセスを経ない大企業」を抽出し、その特徴を解析した。本研究の主な研究成果は以下である。

まず、本研究は、企業の規模がどのような意味を持つかについての考察を行い、これまでひたすら規模の増大が望ましいとしてきた経営戦略論を相対化することを行っている。現在では、外部の経営資源利用が進んでいることから自分で経営資源を保有する必

要は減少しており、経営資源を蓄積することが成長であり、望ましい状態であるとはいえずなくなっている。このときに、大規模であることの利点がどこにあるかを再検討する必要がある。

次に、「競争を通じた成長プロセスを経ない大企業」の存在が確認された。計画経済時代に作られた国有大企業は、最初から大規模に設立され、いわゆる人工的な大企業であるという特徴がある。

さらに、中国大企業の成立経緯を三類型に分けることができる。つまり、第 1 類型の競争の中で成長した企業、と第 2 類型の最初から大規模に設立されたことによって、改革開放以降に保持していた経営資源を用いて成長をしていった企業、と第 3 類型の最初から大規模に設立されただけで、競争の影響を受けず、環境の変化にも適応していない「競争を通じた成長プロセスを経ない大企業」の三種類である。また、三類型のパフォーマンスを比較した結果、第 1 類型の企業は、第 2 類型と第 3 類型の企業よりパフォーマンスが高い。

最後に、以上の分析に基づけば、中国大企業での事例は、単に経営資源を集積しても有効でないことが示唆されている。資源集積が有効な企業経営に至るためには、資源を活用する能力が必要であることが示され、その意味では、中国大企業を説明するのに有効な理論はダイナミック・ケイパビリティであり、多角化は規模を大きくする手段としてとらえるよりも、資源活用のための手段であるといえる。

また、本研究の主な貢献は以下の 2 点にある。第 1 に、大企業論という視点がますます必要になってきていることを示し、現在の先進国・新興経済国における大企業の研究に新しい視座をもたらすことである。特に、既存の多角化戦略を中心とした諸理論をそのまま中国企業に適用するのではなく、先進経

済と新興経済の相違 経済体制の相違という 2 つの視点から、独自の成長理論を検討したことで、従来の理論をより精緻化させた。第 2 に、中国企業の類型・特性を明らかにし、「競争を通じた成長プロセスを経ない」大企業の存在を抽出した。中国大企業には、成長を経ていない企業と成長を経た企業があることを指摘して、それを比較し、現在中国で成功しているモデルはどのタイプに多いかを解明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

江向華、「中国大手製造業の成長メカニズムの特殊性に関する一考察」、広島大学 Discussion Paper Series、査読無、2012.

〔学会発表〕(計 4 件)

江向華、中国巨大製造企業のダイナミクス-「温室育ち」の企業たち-、2015 年度第 2 回しごと能力研究会部会、2015 年 7 月 4 日、鳥取環境大学

江向華、中国大手製造業のダイナミクス、アジア市場経済学会第 19 回全国研究大会、2015 年 6 月 27 日、青森大学

江向華、中国大手製造業の成長メカニズムと制度のダイナミクスに関する一考察、アジア市場経済学会東西合同部会、2014 年 12 月 13 日、大阪産業大学

江向華、住宅設備機器メーカーの新製品開発におけるプロダクト・チャンピオンの探索 - A 社の事例考察 -、国際ビジネス研究会関西支部中四国支部、2012 年 5 月、広島経済大学

〔図書〕(計 2 件)

江向華、『中国巨大製造業のダイナミクス-「温室育ち」の企業たち-』(仮題)、2015 年、中央経済社(発行確定)

広島大学マネジメント研究センター編(分担執筆)、「先進経済国と新興経済国における企業の成長戦略論」『連携による知の創造-社会人大学院の新たな試み』、2014 年 3 月、白桃書房、104-106 頁

6 . 研究組織

(1)研究代表者

江向華 (JIANG XIANGHUA)

就実大学・経営学部・准教授

研究者番号：60582393